



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 27 年 10 月 22 日 (木)

木材利用シンポジウム in 秋田に出展 編

「木材の土木的利用の現状と秋田スギの利用拡大に向けて」をテーマとするシンポジウムが秋田市の秋田拠点センターアルヴェで開催されました。このシンポジウムは、土木学会の木材工学委員会が土木分野での木材利用の拡大を目指して、毎年、全国各地で開催しているものです。木高研の佐々木先生を中心とする実行委員会の方々が 1 年以上準備に時間をかけてこられました。

初日となるこの日は、講演会と企業展示です(2 日目は木ダムや木橋、海岸林の木製防風柵などの現地検討会)。2つの基調講演—林野庁東北森林管理局長・飛山龍一氏の「森林の現状と木材利用」、木高研所長・林知行氏の「木材利用の基礎知識」—の後、3 講演—国土交通省東北地方整備局企画部技術企画官・地本敏雄氏「東北地方整備局における木材利用推進状況」、秋田県農林水産部林業木材産業課長・橋場忠則氏「秋田県の木材利用に関する取り組み」、日本木材保存協会会長・今村祐嗣氏「木材の耐久性と維持管理」—が続きます。いずれも、これからの木材利用を考えていく上で示唆に富んだ内容でした。

全国各地からの参加者約 160 人の方々には風景街道事業と土木利用以外の楽しい使い方を知っていただく良い機会と考え、数々の企業展示に混じってネットワークも出展しました。新作の屋台の組み立てが始まると、周囲の皆さんも何が出来上がるのかと興味深々。ライトが点灯すると更に注目度が上がりました。

秋田の伝統的キャラクターと言えば、なまはげ。ウッディさんないさんの新作、腰ほどの高さのある赤なまはげ・青なまはげが屋台の両脇を固めます。また、八角形のハニカムプランターや湾曲プランターカバーには寄せ植えた花々を入れて、おもてなし空間を演出しました。

これらは八郎湖サービスエリアでのイベントやまち灯りなどで、秋田らしい木の香る道を演出するものとして活用していきたいと考えています。搬出入やセッティングにお手伝い下さった皆さま、ご協力有難うございました。

文：渡辺 千明



東北森林管理局のブースでは、東日本大震災の被災沿岸部で防風林の再生に使われている丸太の防風柵や砂止めの柵が紹介されていました。



ウッディさんない製の木製バリケード。スグITCHがプリントされ、工事現場だけでなく、イベントでも使いたいかわいさです。



新作屋台を中心にしたにぎやかなイベント空間は、周囲のブースとはかなり異なった雰囲気でしたが、壁面のパネルにも多くの方が足を止めて下さいました。